

伊吹山を守る自然再生協議会規約

(名称)

第1条 本会は、伊吹山を守る自然再生協議会（以下「協議会」と称する。）という。

(対象となる区域)

第2条 協議会で検討する環境保全の対象となる区域は、伊吹山全域とする。

(目的)

第3条 対象区域の環境および景観を保全するために、必要となる事項の協議および事業を行うことを目的とする。

(協議会の事務および事業)

第4条 協議会は、次に掲げる事務および事業を行う。

- (1) 伊吹山再生全体構想の作成・改定
- (2) 伊吹山自然再生事業実施計画内容の検討
- (3) 天然記念物伊吹山頂草原植物群落保存管理計画に係る協議
- (4) 伊吹山再生全体構想に係る各団体の事業実施に係る連絡調整
- (5) その他必要な事項に関すること

(委員)

第5条 協議会の委員は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 伊吹山に関わる保全活動団体、自然環境に関し専門的知識を有する者
- (2) 地域住民
- (3) 関係企業
- (4) 関係行政機関および関係地方公共団体
- (5) 県民から公募した者
- (6) その他協議事項との関わりが深く協議会に出席が必要とされる者

(就任、辞任および解任)

第6条 前条第1項の委員への就任は協議会の合意によるものとする。

- 2 委員を辞任しようとする者は、会長に書面により通知しなければならない。
- 3 協議会の運営に著しい支障をきたす場合には、協議会の合意により委員を解任することができる。

(会長)

第7条 協議会に会長1名を置き、滋賀県琵琶湖環境部次長をもってこれを充てる。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総括する。

(協議会の会議の開催)

第8条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議の議長は、会長がこれにあたる。
- 3 会長は、意見を聴取することを必要と認める場合、協議会の会議に委員以外の者の出席を要請することができる。
- 4 会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、滋賀県自然環境保全課長が会長を代理するものとする。
- 5 協議会の会議は年2回を目途として開催するものとする。

(伊吹山入山協力金事業部会)

第9条 協議会は、第3条に掲げる目的を達成するため、伊吹山入山協力金事業を実施することを目的として、伊吹山自然再生協議会入山協力金事業部会（以下「部会」と称する。）を置く。

2 協議会は、部会の会員を伊吹山自然再生協議会を構成する団体より任命するものとする。

3 協議会は、部会で実施する事業計画の報告を受けるものとする。

4 その他、部会の運営に必要な事項は、別に定める部会の規約により定める。

(事業年度)

第10条 事業年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(事務局)

第11条 協議会の会務を処理するために事務局を設ける。

2 事務局は滋賀県および米原市が共同で行う。

(事務局の事務)

第12条 事務局は、次に掲げる事務を行う。

(1) 協議会の会議の事務に関する事項

(2) 協議会の会議の議事録の作成および公開に関する事項

(3) その他協議会が付託する事項

(公開)

第13条 協議会の会議は、希少種の保護上または個人情報の保護上支障のある場合を除き、原則公開とする。

2 協議会の会議を開催する際には、日時、場所等について予め広く周知を図る。

3 協議会の議事結果は、要旨をとりまとめて議事要旨とし、ホームページ等で公開する。

(規約改正)

第14条 この規約は、協議会の承認を経て改正することができる。

(附則) この要綱は平成20年3月25日から適用する。

(附則) この規約は平成26年1月28日から適用する。

(附則) この規約は平成28年4月1日から適用する。

(附則) この規約は平成29年6月15日から適用する。

令和 5 年度 伊吹山入山協力金事業報告（概要）

令和 5 年度概況

令和 5 年度は、令和 5 年 7 月 12 日豪雨により大規模な土砂流出が発生。登山道が崩落し、米原市側山麓からは登山不可の状況となりました。

これにより、入山協力金総額収入は 9,103 千円と前年比 63%となりましたが、支援企業（（株）資生堂）や個人寄付により、1,488 千円の寄付収入がありました。また、山頂側での協力金は過去最高額を記録するなど、多くの皆様から心のこもった支援をいただきました。

事業面では、利用ニーズの高い山頂公衆便所の緊急修繕のほか、長期的な対策を視野に入れた植生復元の取組を実施しました。

主な事業

▶山頂公衆便所の漏水修繕工事を実施

山頂公衆便所で 4 月に漏水故障が発生したため、手洗配管系統（ポンプ・配管等）の緊急修繕を行いました。

漏水修繕工事費：1,134 千円



修繕前



修繕後

▶ 3 合目の金属柵設置や保全活動を支援

保全団体による 3 合目の金属柵設置やススキ等の刈取事業に引続き補助・支援しました。3 合目の保全活動については、令和 4 年度より継続して、（株）資生堂様に人的・資金的支援をいただきました。

3 合目保護団体への補助金・委託料：869 千円

3 合目金属柵原材料費：788 千円



3 合目保全活動

▶市や各保全団体による植物の調査保全活動、登山道整備を支援

山頂西側を金属柵化するため、令和 5 年度に米原市が設置した中央ラインの金属柵（延長 275m）に対し、半額相当を助成しました。

市への金属柵設置助成費：3,235 千円

また、各保全団体による植物の調査や保全活動、山頂登山道の整備に補助・支援を行いました。

山頂保護団体への補助金・委託料：1,194 千円



金属柵中央ライン

▶南斜面の土砂流出対策試験事業に物品を提供

南斜面崩壊を受け、市の試験施工する土のう筋工（ヤシ繊維土のう袋、アンカーピンの一部）の資材費や重機借料を支援しました。

斜面土砂流出対策事業消耗品費・借料：365 千円



土のう筋工

▶入山協力金への協力呼びかけ看板を作成

年度末の 3 月になりましたが、入山協力金への協力を呼びかける看板を作成しました。

入山協力金啓発看板作成委託料：94 千円



協力金看板

伊吹山を守る自然再生協議会 入山協力金事業部会
令和5年度(2023年度) 期末決算書(自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日)

A 収入

(単位:円)

項	目	予算額(A)	収入済額(B)	摘要	差額(B-A)
(1) 伊吹山入山協力金	1 伊吹山入山協力金	¥14,000,000	¥9,103,582	入山協力金(入山者)	▲ 4,896,418
	2 寄付金	¥0	¥1,488,120	入山協力金(寄付者) 企業寄附金	1,488,120
(2) 雑収入	1 雑収入	¥1,000	¥103	利息	▲ 897
(3) 基金	1 基金	¥620,000	¥620,000	登山道施設改修基金繰入金	0
		¥3,300,000	¥3,235,000	植生防護柵改修基金繰入金	▲ 65,000
(4) 繰越金	1 繰越金	¥2,000,000	¥4,257,319	前年度繰越金	2,257,319
合計		¥19,921,000	¥18,704,124		▲ 1,216,876

…ア

B 支出

項	目	予算額(A)	支出済額(B)	摘要	差額(B-A)	
(1) 公衆便所維持管理事業	1 公衆便所維持管理事業	3,220,000	1,800,000	助成費 1,800,000円	▲ 287,000	
	2 公衆便所維持補修事業		1,420,000	1,133,000		工事費 1,133,000円
(2) お花畑維持管理事業	1 三合目貴重植物保全事業	9,000,000	950,000	補助金、委託料 868,703円 原材料費 787,600円 消耗品費 30,926円 保険料 6,439円	57,850	
	2 山頂等貴重植物保全事業		8,050,000	7,364,182		委託料 290,695円 原材料費 2,032,004円 使用料 191,060円 実費弁償 52,000円 修繕料 159,500円 助成費 3,235,000円 消耗品費 872,010円 保険料 80,840円 補助金 451,073円
(3) 登山道維持管理事業	1 山頂等登山道維持管理事業	800,000	500,000	消耗品費 996円 補助金 450,634円	15,730	
	2 表登山道等維持管理事業		300,000	364,100		借料 67,100円 消耗品費 297,000円
(4) パトロール事業	1 応急手当対策事業	100,000	100,000	93,996	93,996	▲ 6,004
(5) 啓発・収受事業	1 啓発・収受事業	3,550,000	2,000,000	482,535	委託料 441,336円 消耗品費 41,199円	▲ 2,159,745
	2 啓発・環境学習事業		1,550,000	907,720	委託料 392,590円 消耗品費 32,252円 補助金 482,878円	
(6) 事務経費	1 事務経費	800,000	800,000	689,582	689,582	▲ 110,418
(7) 予備費	1 予備費	2,451,000	2,451,000	0	0	▲ 2,451,000
合計		19,921,000	14,980,413		▲ 4,940,587	

…イ

C 基金明細表

(単位:円)

名称	前期末残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
伊吹山を守る基金	7,000,000	0	3,855,000	3,145,000	植生防護柵基金繰入金 ¥4,500,000 登山施設改修基金繰入金 ¥2,500,000
計	7,000,000	0	3,855,000	3,145,000	

…ウ

D 経過勘定表

(単位:円)

未払費用(R6.3.31時点)						精算(支払)完了日
項	目	節	摘要	支払先	金額	
(2) お花畑維持管理事業	2 山頂等貴重植物保全事業	補助金	伊吹山を守る補助金	伊吹山ネイチャーネットワーク	¥309,399	R6.4.1
(5) 啓発・収受事業	1 啓発・環境学習事業	補助金	伊吹山を守る補助金	伊吹山ネイチャーネットワーク	¥303,128	R6.4.1
合計					¥612,527	

…エ

預金残高との照合

ア	¥18,704,124	…	収入済額	
イ	¥14,980,413	…	支出済額	
ア-イ	¥3,723,711			
+	ウ	¥3,145,000	…	基金残高
		¥6,868,711	…オ	
カ	¥7,481,238	…	預金残高(令和6年3月31日現在)	
-	エ	¥612,527	…	経過勘定
		¥6,868,711	…キ	

オ、キの金額一致

伊吹山を守る自然再生協議会 入山協力金事業部会

令和 5 年度期末決算 伊吹山入山協力金事業報告書
(令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで)

I. 収入 18,704,124 円

(項 1) 伊吹山入山協力金 10,591,702 円

- 1 伊吹山入山協力金 (入山者) 9,103,582 円
 - (参考) 2019 年度 (令和元年度) 14,018 千円
 - 2020 年度 (令和 2 年度) 11,146 千円
 - 2021 年度 (令和 3 年度) 11,586 千円
 - 2022 年度 (令和 4 年度) 14,427 千円
- 2 寄付金 1,488,120 円 (資生堂、個人寄付)

(項 2) 雑収入 103 円

- ・預金利息 103 円

(項 3) 基金 3,855,000 円

- ・登山道施設改修基金繰入金 620,000 円
- ・植生防護柵改修基金繰入金 3,235,000 円

(項 4) 繰越金 4,257,319 円

- ・前年度繰越金 4,257,319 円

II. 支出 14,980,413 円

(項 1) 公衆便所維持管理事業 2,933,000 円

- 1 公衆便所維持管理事業 1,800,000 円

4つの公衆便所(山麓、一合目、三合目、頂上)に係る経費の約半分相当を「維持管理助成費」として米原市に支払いました。

 - ・助成費(維持管理半額相当助成) 1,800,000 円(米原市)
- 2 公衆便所維持補修事業 1,133,000 円

山頂公衆便所で漏水故障が発生したため、緊急修繕を行いました。

 - ・工事費(漏水修繕工事) 1,133,000 円((株)ハウステクノ関ヶ原)

(項 2) お花畑維持管理事業 9,057,850 円

- 1 三合目貴重植物保全事業 1,693,668 円

伊吹山自然保護活動団体による 3 合目における植物保全活動を支援しました。また、企業の支援

を受けて、3合目の老朽化した化繊ネット柵 200m分を金属柵に移行しました。

- ・補助金、委託料（三合目植物保全） 868,703 円（ユウスゲと貴重植物を守り育てる会）
- ・原材料費（防鹿柵） 787,600 円（（株）キャムズ）
- ・消耗品費（修繕資材等） 30,926 円（（株）コメリ、DCM（株）、（株）キャムズ）
- ・保険料（ボランティア保険） 6,439 円（AIG 損害保険（株））

2 山頂等貴重植物保全事業 7,364,182 円

中央ラインの金属柵化工事に係る経費の半分相当を「助成費」として米原市に支払いました。

また、柵の金属化試験や補強、修繕等を実施したほか、伊吹山自然保護活動団体による山頂における植物保全活動を支援しました。

- ・委託料（作業補助） 290,695 円（伊吹山観光振興会、NPO 法人霊峰伊吹山の会）
- ・原材料費（防鹿柵） 2,032,004 円（正和商事（株）、（株）コメリ、（株）キャムズ）
- ・使用料（バス、無線、モノラック） 191,060 円（有限会社みゆき観光バス、ネクストギアーズ（株）、伊吹山頂営業組合）
- ・実費弁償（謝礼） 52,000 円（調査ボランティア）
- ・修繕料（門扉修繕） 159,500 円（（株）久田）
- ・助成費（金属柵設置半額助成） 3,235,000 円（米原市）
- ・消耗品費（修繕資材等） 872,010 円（（株）第一自動車（アクアワールド・ダイイチ）、（株）又サ的場商店、（有）高木製作所、WORKMAN、アヤハディオ長浜店、コーナンイオン長浜店、（株）コメリ、ホームプラザナフコ、フジモト、（株）MonotaRO、（株）キャムズ、（株）又サ的場商店、近江屋ロープ（株）、正和商事（株）、日新産業（株） 92,067 円（ビルディ（株））
- ・保険料（損害賠償保険他） 80,840 円（AIG 損害保険（株）、東京海上日動火災保険（株））
- ・補助金 451,073 円（伊吹山ネイチャーネットワーク、伊吹山もりびとの会）

（項3）登山道維持管理事業 815,730 円

1 山頂等登山道維持管理事業 451,630 円

伊吹山自然保護活動団体による山頂における登山道整備活動を支援しました。

- ・消耗品費 996 円（（株）コメリ）
- ・補助金 450,634 円（伊吹山もりびとの会）

2 表登山道等維持管理事業 364,100 円

南斜面崩壊を受け、市の試験施工する土のう筋工（ヤシ繊維土のう袋、アンカーピンの一部）や重機借料を支援しました。

- ・借料 67,100 円（近江ユニキャリア販売（株））
- ・消耗品費 297,000 円（滋賀北部森林組合）

（項4）パトロール事業 93,996 円

1 応急手当対策事業 93,996 円

AED リース料および薬代を支払いました。

- ・ 使用料 (AED) 67,392 円 (リコーリース (株))
- ・ 消耗品費 (薬、熱中症対策品) 26,604 円 ((株) 近江理工、フレンドマート山東店、久保薬局)

(項5) 啓発・収受事業 1,390,255 円

1 啓発・収受事業 482,535 円

登山者に対し適正利用の呼びかけと情報提供を行い、伊吹山入山協力金への理解を求め、収受業務を行いました。7月の麓からの登山道通行止め以降、収受業務委託は中断となりました。

- ・ 委託料 (収受業務) 441,336 円 (上野区)
- ・ 消耗品費 41,199 円 (キャンドウ、(株) コメリ、セリア、ホームプラザナフコ、川村百貨店)

2 啓発・環境学習事業 907,720 円

適正利用の呼びかけと情報提供を行い、伊吹山入山協力金への理解を求めるための、啓発ノベルティ、領収書、看板作成を行いました。

また、伊吹山自然保護活動団体による伊吹山の自然と保全の啓発・学習事業を支援しました。

- ・ 委託料 (看板、登山 MAP、啓発パンフレットデザイン) 392,590 円
(NAYA CREATIVES、暮らシフト研究所)
- ・ 消耗品費 32,252 円 ((株) コメリ、シモジマ、フレンドマート山東店、ホームプラザナフコ)
- ・ 補助金 482,878 円 (伊吹山ネイチャーネットワーク、伊吹山もりびとの会)

(項6) 事務経費 689,582 円

1 事務経費 689,582 円

伊吹山ドライブウェイ通行料、顧問交通費・報酬、金融手数料等を支払いました。

- ・ 公課費 (源泉徴収税) 11,550 円 (長浜税務署)
- ・ 使用料 (有料道路通行料) 354,820 円 (日本自動車道 (株))
- ・ 手数料 (振込等手数料) 63,140 円 (レーク伊吹農協)
- ・ 消耗品費 (事務物品) 2,735 円 ((株) ヤマダデンキ)
- ・ 通信運搬費 33,000 円 (NEC ネットエスアイ (株))
- ・ 備品費 (ノートパソコン) 45,000 円 (合同会社 esNET)
- ・ 報酬 (交通実費、報酬) 179,337 円 (学識経験者)

IV. 基金

・ 伊吹山を守る基金

前期末残高 7,000,000 円

当期増加額 0 円

当期減少額 3,855,000 円

(内訳) 植生防護柵基金繰入金 ¥4,500,000

登山施設改修基金繰入金 ¥2,500,000

期末残高 3,145,000 円

令和 6 年度 伊吹山入山協力金事業経過

令和 6 年度概況

令和 6 年度も米原市側の山麓からは登山不可の状況であり、入山協力金収入は山頂側からのみとなることから、当初予算想定時（令和 6 年 3 月）では 5,000 千円を見込んでいましたが、10 月 18 日現在、山頂側の収入は平年より 2 割増の高水準で推移し、令和 6 年度末には 6,000 千円以上の入山協力金収入を見込んでいます。これには、伊吹山ドライブウェイ料金所で、植生復元の取組や入山協力金・ローカルルールの啓発パンフレットを配布していただいていること、啓発看板を更新したこと等が効果を発揮したものと考えられます。

事業面では、5 月にスポット柵を 2 基設置したほか、米原市と分担して山頂西側の金属柵化を行いました（西側金属柵化完了：9 月末）。

令和 6 年度上半期 主な事業

▶（5/22）キンバイソウ群落柵を設置

地元上野区の協力により、かつてキンバイソウ群落であった場所に金属柵を設置しました。傾斜度の関係から少し元の自生地より西寄りの設置となったこともあり、残念ながらキンバイソウの復活は今のところ見られませんが、イブキトラノオ等の復活が見られました。

上下式金属柵を設置



▶（5/31）ボランティアを呼びかけ、森林・林縁帯で柵を設置

自然保護団体、岐阜県・滋賀県側自治体、伊吹山ドライブウェイ、一般ボランティアらに呼びかけ、森林・林縁帯で金属柵を設置しました。6 月のアンカー設置までにニホンジカ幼獣の進入があり、回復が遅れましたが、9 月にはイブキトリカブト等の復活が見られました。

一般ボランティアも参加



▶（6/20,10/17）（株）資生堂様より 3 合目の保全活動を支援

（株）資生堂様より、保全団体である「ユウスゲと貴重植物を守り育てる会」による金属柵設置事業の実施に対し、引続き支援をいただきました。

【2024 年】老朽化柵の更新__延長 200m

一番大きい柵の金属化が完了



▶(10/11) 合同研修会を開催

環境教育やエコツーリズムを実践されている各保全団体に呼びかけ、平成 24 年度の天生県立自然公園への視察以来約 10 年ぶりに、小規模ながら合同研修会を開催しました。自然公園法、伊吹山ローカルルール、ニホンジカと希少種の関係性などを学び、捕獲の状況や南側斜面の対策の現場を確認しました。

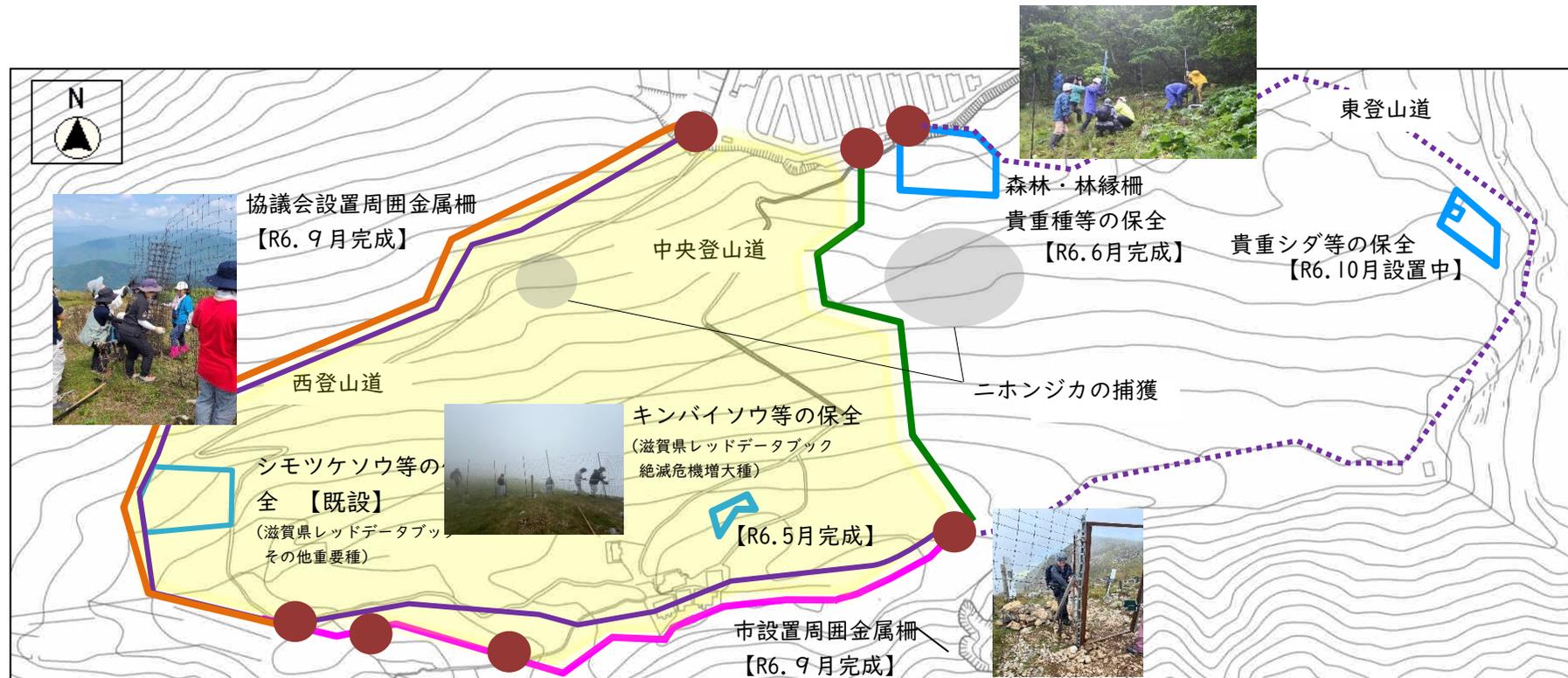
研修会の様子



伊吹山頂草原植物群落 植生防護柵設置図

<凡例>

- : 既設の周囲化繊ネット柵(約3,000m)
- : 既設の周囲金属柵(300m)
- : R6設置の周囲金属柵(1,100m)
- : 中規模の金属柵(既設1箇所、予定3箇所)
- : 植生防護柵扉



- ・ 山頂域西側（黄色のエリア）の周囲金属柵化は、令和6年9月末に完了しました（市508m、協議会600m）。
一部は上下式の金属柵であり、秋季に柵下げ、春季に柵上げを行います。今年度は多くの植物が成長する時期が既に過ぎていたため、9月末の設置完了時に金属柵内部にいたニホンジカは追出しを行わず、代わりに捕獲を試みています。令和7年度以降は完全に守られるよう、春の追出しを徹底し、柵の維持管理と更なる強化を進めていきます。
- ・ 山頂域東側（緑のラインから東側）は、捕獲を強化しつつ、貴重植物の生息地や類型的な植物群落を保全するため、中規模の金属柵を順次設置・増設する計画です。また、エリアに限らず、絶滅危惧種の恒久的なスポット柵の設置も順次行います。

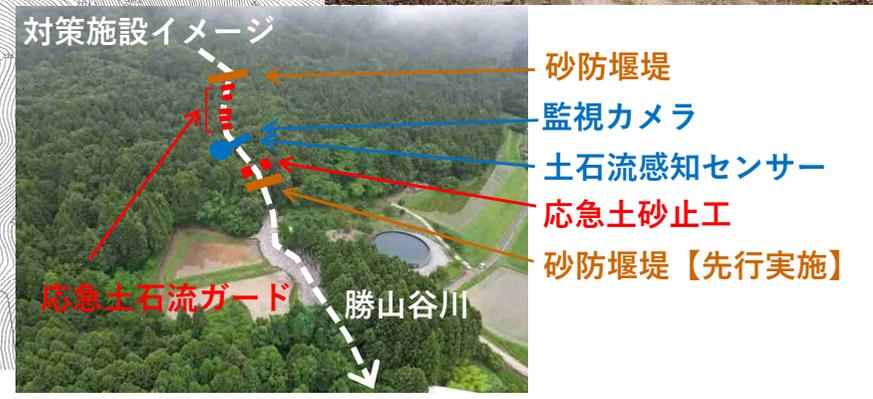
■対策メニュー

【緊急対策 (ハード)】 ①堆積土砂の撤去、②応急土砂止工(強靱ワイヤーネット)、⑧応急土石流ガードの設置

A: 源頭部越流水の応急対策 B: 不安定土砂の撤去

【緊急対策 (ソフト)】 ③監視カメラの設置、④土石流感知センサーの設置、⑤雨量計の設置

【抜本対策 (ハード)】 ⑥⑦砂防堰堤2基の整備 (うち1基は⑥先行実施)、D: 治山堰堤の設置、E: 治山堰堤の設置、森林整備等



出典：砂防基盤図を加工して作成

伊吹山土砂災害対策プラン

《 伊吹山山頂 ～ 南側斜面 ～ 勝山谷川 》

■ 対策メニュー

【緊急対策】

- A: 源頭部越流水の応急対策 (R6/8月)
- B: 不安定土砂の撤去 (R6/8月～9月)
- G: 浸食抑制工 (R6/9月)
- H: 市のシカ捕獲への技術支援 (R6/9～11月)

【抜本対策】

- C: 南側斜面の森林整備等、植生復元調査設計 (R6)、事業実施 (R7～)
- D: 治山堰堤の設置 (R6～R7)
- E: 治山堰堤の設置、森林整備等 (R8～)
- F: ニホンジカ対策 (R6/7月～R9/3月)

C: 南側斜面の森林整備等、植生復元調査設計 (R6) 事業実施 (R7～)

A: 源頭部越流水の応急対策 (R6/8月)

E: 治山堰堤の設置、森林整備等 (R8～)

H: 市のシカ捕獲への技術支援 (R6/9～11月) ※1合目～頂上

F: ニホンジカ対策 (R6/7月～R9/3月) ※1合目～山頂

G: 浸食抑制工 (R6/9月)

B: 不安定土砂の撤去 (R6/8月～9月)

D: 治山堰堤の設置 (R6～R7)

別紙 勝山谷川流域抜粋版 による

勝山谷川

3合目

砂防堰堤

治山堰堤 6

治山堰堤 4～5

治山堰堤 1～3

○ 今回被災箇所

● 既存の治山堰堤 (治山 1～6)

● 既存の砂防堰堤 (勝山谷川第一堰堤)

■ 保安林

出典：砂防基盤図を加工して作成

伊吹山土砂災害対策プラン スケジュール（予定）

メニュー	内容	R6年度				R7年度～	備考
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
緊急対策 (ハード)	①堆積土砂の撤去		→				実施済【砂防室】
	②応急土砂止工の設置		上流側1箇所 → 下流側1箇所 →				強靱ワイヤーネット2箇所設置済【砂防室】
	⑧応急土石流ガードの設置		→				5箇所設置済【砂防室】
	A 源頭部越流水の応急対策		→				実施済【森林保全課】
	B 不安定土砂撤去（治山堰堤6）		→→				1回目済 2回目済 【森林保全課】
	G浸食抑制工		→				2箇所設置済【森林保全課】
緊急対策 (ソフト)	③監視カメラの設置		●				3箇所5基設置済
	④土石流感知センサーの設置		●				2箇所設置済（市）
	⑤雨量計の設置		●				1箇所設置済【砂防室】
	H市のシカ捕獲への技術支援			→			実施【自然環境保全課】

メニュー	内容	R6				R7		R8		R9以降		備考	
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
抜本対策	⑥砂防堰堤新設 (先行実施)		設計、用地測量、用地補償、工事									設計、用地測量、 用地補償、工事 【砂防室】	
	⑦砂防堰堤新設		設計、用地測量、用地補償					工事				設計、用地測量、 用地補償、工事 【砂防室】	
	C 南側斜面の植生 復元												調査、検討、予算要望 【自然環境保全課】
													実施 【自然環境保全課】
	C 南側斜面の森林 整備等												調査、検討、設計 【森林保全課】
													実施 【森林保全課】
	D 治山堰堤の設置												調査、測量、設計 【森林保全課】
													工事 【森林保全課】
	E 治山堰堤の設 置、森林整備等												調査、測量、設計 【森林保全課】
								仮設道工事		治山堰堤工事		工事 【森林保全課】	
F ニホンジカ対策			生息状況調査					試行捕獲(山頂)				調査、捕獲 【自然環境保全課】	

伊吹山の保全・再生に向けた将来像（たたき台）

8合目付近～山頂



6～8合目付近



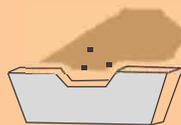
保全・再生の方針

- 郷土種の残存植生を活かし、種子の散布等による群落の拡大を誘導する。
- 浸食が激しい6～8合目付近はガリ浸食対策に治山事業を実施した上で、森林化も検討し植生復元を実施する。

南側斜面（8合目付近～山頂）
裸地に植生基盤を作り、草本植生の回復を図る

南側斜面
（6～8合目付近）
森林化（主に中低木林）

勝山谷川流域



【勝山谷川流域】
治山堰堤、砂防堰堤等の整備

山頂お花畑

【山頂・3合目お花畑】
植生防護柵の強化

【山頂・伊吹山全域】
ニホンジカ対策
（生息調査、捕獲手法検討、
捕獲強化）

表登山道

3合目お花畑

【南側斜面】
植生復元事業、治山事業、森林整備、登山道復旧

伊吹山の保全に係る市の取組 令和6年度上半期

1. 復旧基本構想の策定

伊吹山南側斜面等における中長期的な対策を講じていく上において、効果的な施策展開が可能となるよう復旧基本構想の策定を進めています。業務は令和6年5月14日から開始しましたが、7月に3回発生した伊吹集落の土砂災害を踏まえた構想として策定を進めています。

【業務概要】

件名	伊吹山復旧基本構想策定業務
工期	令和6年5月14日から令和7年3月21日まで（受託：国土防災技術株式会社）
概要	伊吹山再生全体構想や滋賀県が実施する調査等、伊吹山に関する各種調査・計画、伊吹山に知見の深い地域住民や専門家の意見との整合性を図り、長期にわたって効果的な施策展開が可能となるよう、南側斜面の復旧基本構想を作成する。

【業務工程】

5～8月	文献および現地踏査 地形、地質、土壌、気象条件 植生、ニホンジカによる植生被害状況 法規制、災害履歴 斜面荒廃状況
9～翌1月	専門家・地域住民からの助言・意見を踏まえた構想・工法の検討 第1回意見聴取会（10月7日,9日実施） 第2回意見聴取会（12月末～1月予定） （専門家）砂防工学1名、植物生態学1名、野生動物保全・管理学2名 （地域住民）2名
2～3月	復旧基本構想の策定、公表

【伊吹山斜面の現況概要】

- ・別添「伊吹山の被害状況」図 参照
- ・令和6年7月、降雨により3回の土石流が発生し集落の住宅に土砂が流入。いずれも3合目付近の平坦部に貯まった雨水が勝山谷川に流れ込み、渓床を侵食しながら土石流化したものと考えられる。
- ・令和4年11月と令和6年7月の航空レーザ計測データの差分分析によると、勝山谷標高450mより下流で深さ1～2m、標高450m～源頭部付近で深さ2～5m、上部斜面の3合目～8合目では幅2～5m、深さ2～5mのガリ侵食（※）が見られる。
- （※）ガリ侵食…降水による集約した水の流れによって地表面が削られてできた地形のこと。

【基本的な考え方について】

◆伊吹山における山地災害に係る対策の考え方

- ・8合目以上の上部は、「緑化工」による侵食防止や落石対策が必要であると考えられる。
- ・中腹部は、「水路工」や「流路工」等によるガリ拡大防止や「緑化工」による侵食防止が必要であると考えられる。
- ・下流部（渓流部）は、「ダム工」等により土砂の安定化を図ることが必要であると考えられる。
- ・登山道周辺は、路肩から崩れて土壌侵食や落石の発生源となっている箇所があるため、登山道の適切な修復により、新たな侵食や崩壊の原因とならないようにする必要があると考えられる。

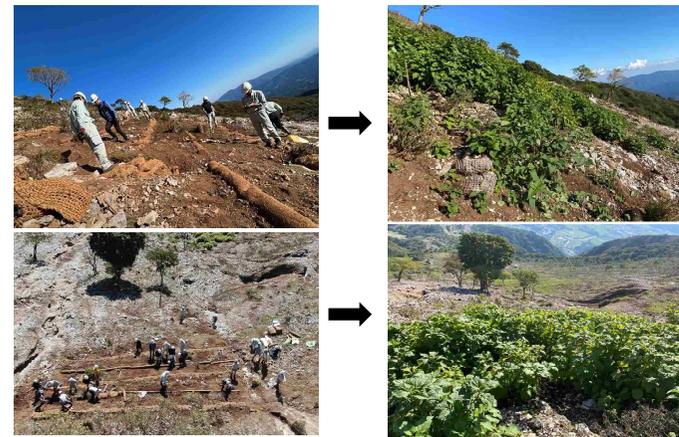
◆緑化工（緑化基礎工+植生工）について

- ・「緑化工」は、斜面を安定化させる筋工等の「緑化基礎工」と、植物繁茂を助け斜面の保護を図る「植生工」を組み合わせることが効果的と考えられる。
- ・「植生工」においては、ニホンジカ対策が必要で、生息状況調査や捕獲圧強化を継続した上で、小面積の試験的施工により効果を確認しながら進めることが有効と考えられる。
- ・「植生工」において種苗の利活用を行う場合は、地域性種苗の利用などを定めた「自然公園における法面緑化指針（平成27年10月、環境省自然環境局）」に則るものとする。

【参考】令和5年度試験施工結果（工法：土のう筋工）

設置時の状況（R5.10.18）

1年後の状況（R6.10.11）



土のう筋工施工箇所には、クサギ、ハダカホオズキ、レモンエゴマ等が繁茂し、土壌流出が止まることの効果が確認された。

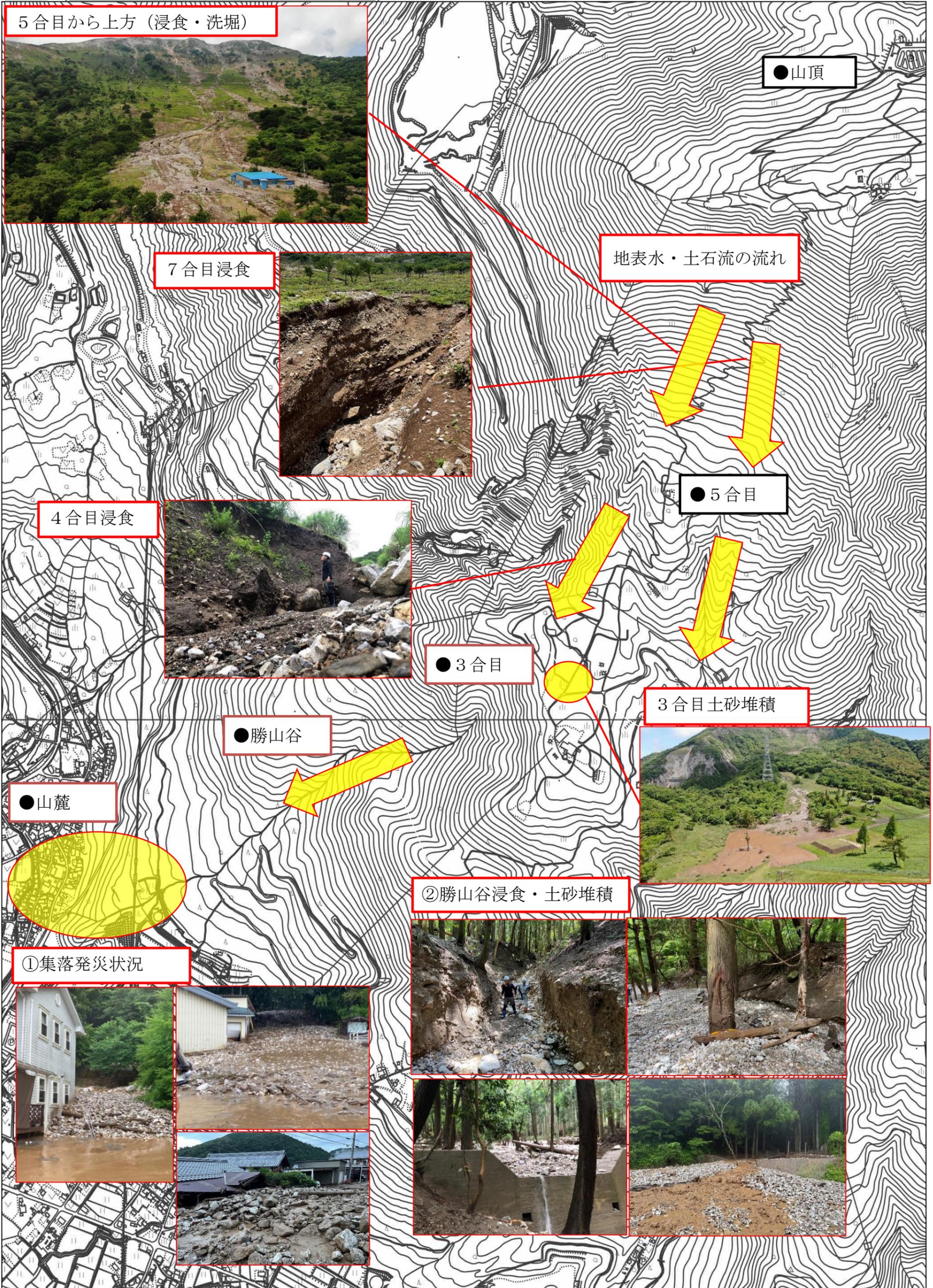
【参考】令和5年度試験施工結果（工法：自然侵入促進(種子無)マット+アーチ式獣害ネット一部併用)

設置時の状況（R5.6.20）

1年経過後の状況（R6.7.31,9.13）



特にアーチ式獣害ネット併用部でアコンやヨモギ等が繁茂し、植生工でのニホンジカ対策の重要性が改めて確認された。



2. 伊吹山植生復元プロジェクトの推進【主要事業の進捗報告】

①南側斜面の崩壊防止・植生回復

- ・令和6年度緑化試験対策工の実施（9/30 完工）

令和5年度の実績を基に、「土のう筋工（延長171m）」と「アーチ式獣害ネット（面積998㎡）」を設置しました。施工箇所には、「ユウスゲと貴重植物を守り育てる会」に採取いただいた伊吹山3～4合目自生のフッキソウの株分け苗やタケニグサの種子など（計約150kg）を施工箇所に播種・移植し、早期の復元を促しています。



施工状況

資材は滋賀特機（株）の協力によりドローンで運搬しました



- ・3合目堆積土砂の撤去（5～9月）

集中的な降雨がある度に流出し、3合目で沼地と化し堆積した土砂が下流域に流れ込むのを防止するため、3合目の堆積土砂を随時撤去しています。



②ニホンジカの捕獲強化（別途説明）

③山頂・3合目における植生保全

- ・イヌワシ保全柵（進入防止柵）の設置（4/19）

伊吹山を守る自然再生協議会でイヌワシ保護と貴重種保全を目的に特に立入制限を呼びかけているエリアでイヌワシの営巣が確認されたことを受け、協議会事務局として滋賀県とともに進入防止柵を設置しました。

- ・山頂西側の金属柵化工事の実施（9/30 完工）

9月末工期で山頂西側の柵を金属化する工事を行いました。

詳細：報告事項（2）資料「伊吹山植生防護柵設置図」



④伊吹山植生復元プロジェクトの発信・支援の輪を広げる活動

- ・広域連携協定の締結（協定締結日 R6.8.11）

伊吹山麓の岐阜県揖斐川町、関ヶ原町、滋賀県米原市の3市町が、再び緑あふれる伊吹山の姿を取り戻し、貴重な地域資源を未来につなげ、伊吹山の再生、振興に連携協力することを目的として、広域連携協定を締結しました。

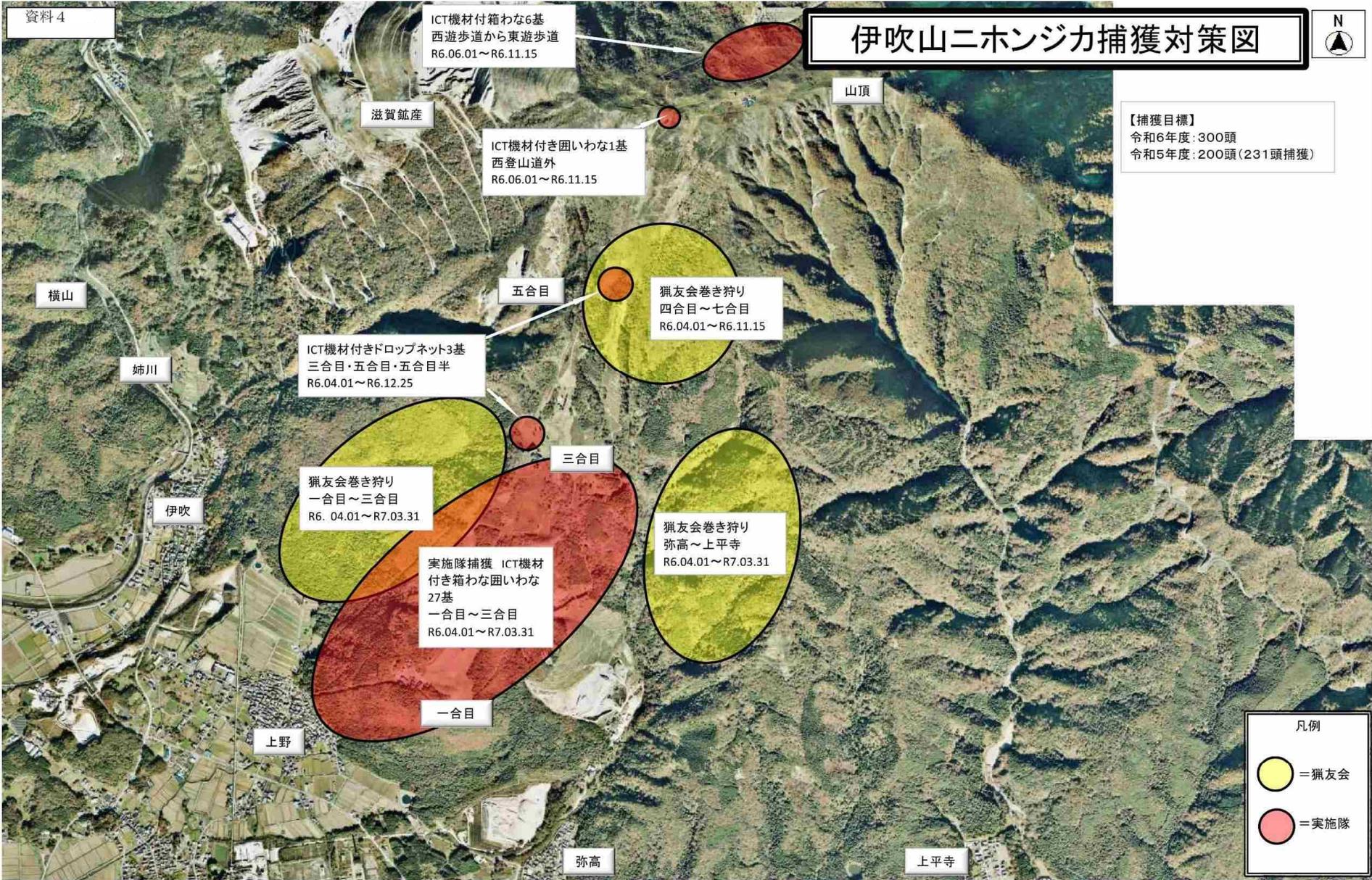
- ・事業者との連携協力協定の締結

地球温暖化対策や自然保護の持続的な推進を図り、伊吹山を後世に守り、伝えることを目的として、協力企業と「伊吹山植生復元プロジェクトの連携協力に関する協定」を締結しました。

令和5年度締結（協定継続中）：滋賀特機株式会社（株）、大阪シーリング印刷（株）

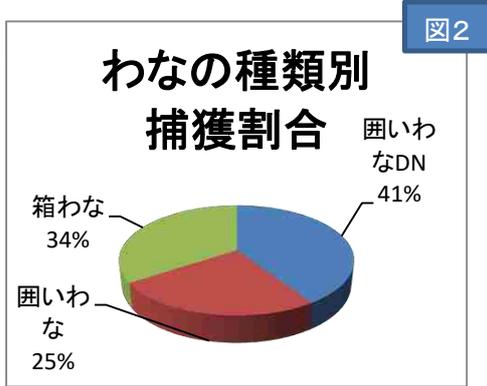
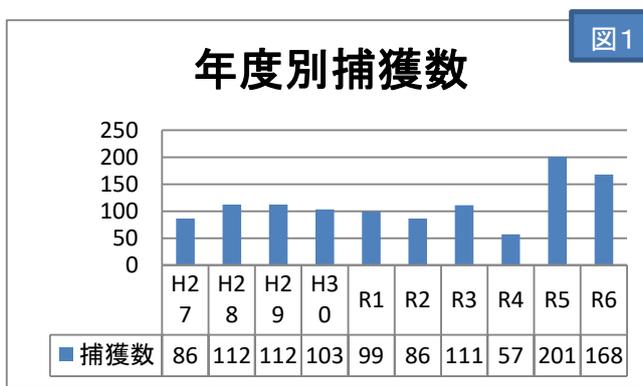
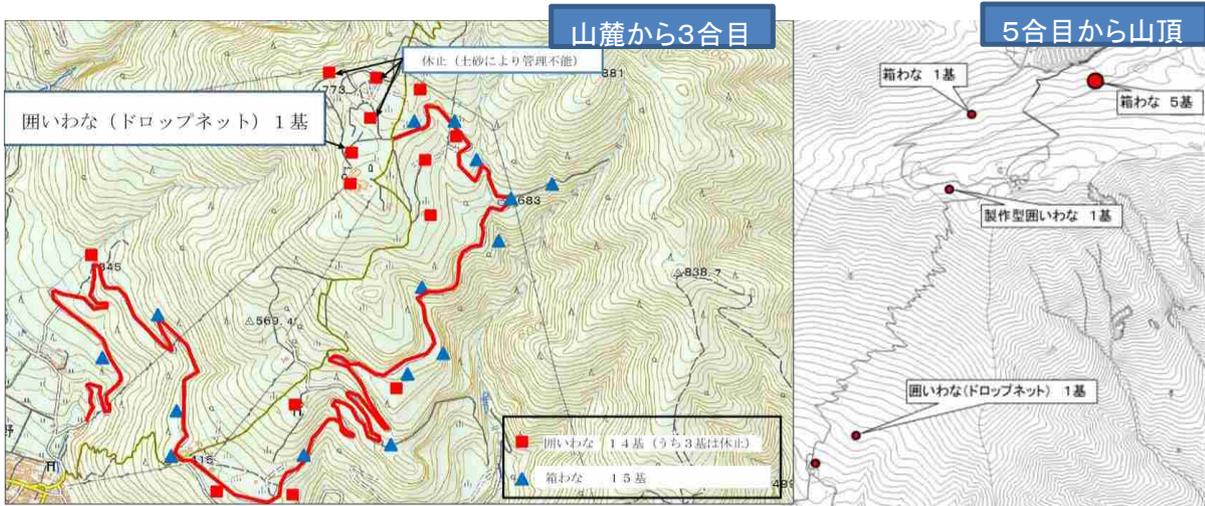
令和6年度締結：日本自動車道（株）（伊吹山ドライブウェイ）（協定締結日 R6.4.2）

滋賀鉱産（株）（協定締結日 R6.8.27）



令和6年度 伊吹山ニホンジカ捕獲実績 (令和6年10月22日現在)

捕獲箇所： 山麓から山頂
 捕獲方法： 箱わな 21基(うち6基は山頂に設置)
 囲いわな 19基(うち3基は5合目より山頂に設置)(3基休止中)
 銃 猟 山麓から3合目および4合目から7合目で実施



種類	設置数	稼働日数	捕獲数	わな当たり数	日当たり数
箱わな	15基	197日	54頭	3.60	0.27
囲いわな	12基	197日	39頭	3.25	0.20
囲いわなDN	3基	197日	64頭	21.33	0.32
銃 猟			11頭		

表1

※10月22日現在



伊吹山もりびとの会の2024年活動記録

当会 Facebook, ブログから抜粋

2024.03.16 Saturday 2024年度総会、花の観察会を開催しました。



2024年度の総会を開催しました。2023年度の活動報告と決算報告、2024年度の活動計画と予算について審議され全て承認されました。午後からは、恒例の伊吹山麓等の春の草花観察を行い、アズマイチゲ、ヤマエンゴサク、ショウジョウバカマ、セツブンソウ、フクジュソウ、スハマソウ等、早春の山里に可憐に咲く花々を観察し、春を満喫しました。さあ、2024年度の活動開始です。報告は、鈴鹿の翡翠でした。

2024.04.26 Friday シモツケソウ再生地ネット上げ作業の報告です



本日は8名の会員で、シモツケソウ再生地のネット上げ作業を行い、1時間足らずで作業は完了し、その後、これからの実施予定の場所の確認と、登山道脇のゴミ拾いを実施しました。報告はWANちゃんでした

2024.04.27 Saturday 伊吹山山頂自然観察会の報告です



今年度1回目の自然観察会を伊吹山山頂で行いました。この時期に伊吹山を訪れるのは、私自身20年振り。楽しみにしていた観察会。西登山道から山頂に上がり、東登山道を下りました。

アマナ、ニリンソウをはじめキバナノアマナ、セントウソウ、ショウジョウバカマなど可憐な花がたくさん登山道沿いに咲いていました。夏の花ほど、シカ等の食害の影響を受けていないような印象を受けました。表登山道が土砂崩れの影響で通行止めのため、伊吹山山頂へはドライブウェイからのアクセスのみに限られているため、山頂への登頂者は比較的少なめでした。報告は鈴鹿の翡翠でした。

2024.05.10 Friday 西登山道展望台保護杭・ロープの補修作業等の報告です



5名の会員で西登山道展望台付近の保護杭・ロープの補修作業および西登山道展望台より表登山道へのバイパス道の保護杭・ロープの補修作業を行いました。報告は、WANちゃんでした。

2024.05.15 Wednesday 植生調査の報告です



伊吹山を守る自然再生協議会が実施する「伊吹山 森林・林縁帯植物調査」に、柳沢先生の指導のもと、当会からは、tommyさんと私の2名が参加し、「防鹿柵の位置決めの下見」および「森林帯内の植生調査→希少種の記録と植生変遷の記録」の作業を行いました。報告は、れいでした。

2024.05.15 Wednesday 西登山道の保護杭・ロープ補修作業の報告です



5名の会員で西登山道の位置番号No47～50付近の保護杭ロープ補修を行いました。傾いたり倒れた支柱は、抜いて新しく打ち替え、ロープは一部交換しました。

花も一部咲き始めており、来山の登山者の目を楽しませていた。（ニリンソウ・セントウソウ・アマナ・ヤマブキソウ・ショウジョウバカマ・ツルキジムシロ等）

今年は西洋タンポポが多く見られた。来年度はこの時期に実施してはどうか検討が必要と思われました。報告はWANちゃんでした。

2024.05.17 Friday 中央登山道保護杭及びロープの補修作業の報告です



4名の会員で中央登山道（位置番号31～32・36～37）の保護杭及びロープ補修（一部交換）作業を実施しました。本日も好天に恵まれ、気持ちよく作業を行えました。

報告はWANちゃんでした。

2024.05.22 Wednesday 山頂周辺の保護杭・ロープ補修作業の報告です



3名の会員で山頂一帯の踏み込み防止用保護杭・ロープの補修作業を行いました。
三角点より東側の痛みがひどく、谷側はロープの取り換え作業を実施。次回もロープの補修作業を行います。報告は、WANちゃんでした。

2024.06.05 Wednesday 西洋タンポポ除草作業の報告です



西洋タンポポの除草作業を、ドライブウェイ駐車場周囲の除草班と、西登山道から山頂、中央登山道を周回して除草する班、二手に分かれて実施しました。

2日に予定していた西洋タンポポ除草イベントが悪天候で中止となったため、今回の作業で除草した総重量は8.3kgでした。報告は、れいでした。

2024.06.06, 07, 10, 14 西登山道土砂流出防止作業の報告です。



のべ16名の会員で4日間をかけて、西登山道土砂流出防止作業を行いました。

西登山道の位置番号No41付近で流出した土砂の撤去作業及び流出防止柵の設置です。現地は石灰岩が多く、杭を打つ場所の石灰岩の撤去作業に労力を使いました。報告はWANちゃん&松ちゃんでした。

2024.06.15 Saturday 再生地内の除草作業&山頂の花の生育状況の報告です



本日の作業は西登山道のシモツケソウ再生地の外来種植物の除去とトップシーズンを控えて勢いを増してきた夏の野草の生育状況を観察するものでした。

カノコソウが咲き始めて気の早いイブキトラノオやミヤマコアザミの蕾が上がり始めています。背の高い野草の影でハウチャクソウも咲いていました。

以前は山のあちらこちらで見られたタムラソウやメタカラコウ、ワレモコウ、コオニユリ、クガイソウ、ルリトラノオ、シュロソウも大きく成長してシモツケソウだけでなく伊吹山本来のお花畑の姿が戻ってきました。今日は適度な風も吹いてさわやかな作業日和となり行きかえりの観察会ではピンクのヒヨクソウや小さな外来種のコテングクワガタの発見もあり充実した活動となりました。報告は、G-NAでした。

24.07.07 Wednesday シモツケソウ再生地除草作業及び案内パネルの設置作業の報告です



前日、悪天候で順延したシモツケソウ再生地除草作業及び案内パネルの設置作業の報告です。今日は梅雨時とは思えない好天に恵まれ、作業も捗りました。報告は、れい&シャラでした。

2024.07.13 Saturday 自然観察会の報告です



ヤマホタルブクロ、ミヤマコアザミ、ヒヨクソウなど初夏の花が真っ盛りの中、クガイソウやメタカラコウ、シシウドなど夏の花が咲き出し、伊吹山山頂も賑やかになってきました。報告は、鈴鹿の翡翠でした。

2024.07.18 Thursday 東登山道笹刈り作業の報告です



天候不順が続き、作業が順延していた東登山道の笹刈り作業を実施しました。東登山道で登山道に笹が覆いかぶさっている箇所が多く、作業は大変苦勞しました。報告はWANちゃんでした。

2024.07.20 Saturday ボランティアガイド事前研修会の報告です



再生協議会顧問の青木繁先生をお招きし、午前中は講義、午後は現地研修ととても有意義な研修でした。先生の豊富な知識と経験から繰り出される話は、ためになるものばかりでした。報告は鈴鹿の翡翠でした。

2024.07.21 Sunday エコツアーガイドの報告です



夏の主役シモツケソウが咲き始めて西登山道のシモツケソウ群落再生地ではシシウドやイブキトラノオ、メタカラコウなどの競演に歓声も上がりました。西登山道では鹿が1頭現れて伊吹山だけでなく自然界の変化を感じ取って頂きました。三角点での記念撮影をしてイブキジャコウソウの香りに見送られて全員無事に下山、にこやかにお別れしました。報告はC-NAでした。

2024.07.26 Friday ボランティアガイド1日目の報告です



午前中ガスの中、お昼前より快晴となり琵琶湖、竹生島まで望めて登山者は大喜びでした。西登山道のシモツケソウ再生地の花は夏バージョンが殆ど顔を出し、ルリトラノオ、メタカラコウなどドンドン盛りになりそうです。報告は立山の雷鳥&れいでした。

2024.07.27 Saturday エコツアーガイドの報告です

本日は、クラブツーリズム関西の43名様。お昼過ぎの登山道となりましたが、快晴の天气で視界良好、見事に咲き揃った再生地の花と共に多くの感動を頂きました。下山は東コースを選ばれた健脚の皆さん。駐車場には今晚予定の星空観測会準備が始まっていました。報告は、立山の雷鳥でした。



2024.08.03 Saturday ボランティアガイド9日目の報告です



賑やかな夏の花が真っ盛りですが、サラシナショウマ、タニセリモドキなど秋の花も咲き始め、季節の移ろいを感じることができました。報告は、daxと鈴鹿の翡翠でした。

2024.08.10 Saturday 伊吹山3合目自然観察会の報告です



最初の観察は麓の神社で咲いているキツネノカミソリ。続いて行った3合目への林道途中に咲いていたオオキツネノカミソリとの比較で違いがわかりました。3合目では、キセワタ、シュロソウ、タムラソウ他たくさんのお花に出会えました。とても実り多い8月の自然観察会の日でした。報告は、シャラでした。

2024.08.11 Sunday 山の日イベントの報告です



今年で9年目となる伊吹山ドライブウェイさん主催の「山の日イベント」に会員9名が参加協力し、先着1,000名の方に夏の花のガイドブックを配布し、シモツケソウ再生地等で花のガイドを行いました。

2024.08.24 Saturday 登山道及びシモツケソウ再生地隣接地のヒメジョオンの除草作業の報告です



台風の接近で天候が心配されましたが、崩れることはなく、暑い一日となりました。ルリトラノオをはじめ、夏や初夏の花も見られますが、やはり、山の季節は進んでおり、ミツバフウロ、アキノキリンソウなど秋の花が開花しています。秋を感じる事ができた一日となりました。報告は、れい&鈴鹿の翡翠でした。

2024.09.06 Friday エコツアーガイドの報告です



関東から 26 名の団体のお客様。台風崩れの天候の後、晴天に恵まれ快適なハイキング。キレイだったサラシナショウマが終盤、あの真っ白く登山道を飾って姿はどこへやら。反面 360 度の遠望がきく、琵琶湖に感激され満足の内下山。初めてのモニターツアーで下山後、夕食の後、再び山頂駐車場まで登り、星空観察会に参加されホテル到着は 10 時頃とか。明日より二日間滋賀で滞在、後新幹線で帰られるかってないコースです。次年度の参考にされるとか？案内は立山の雷鳥とカープでした。

2024.09.07 Saturday エコツアーガイドの報告です



長野県各地からの 30 名様、高速道路渋滞でドライブウェイ入り口には 1 時間半遅れ、時間を取り戻すのに、添乗員さん居られない中、ハードな登頂となりましたが、皆さん健脚で山頂では休憩時間もできるほど。日帰りの為、早朝から伊吹山だけに来られた皆さんに感謝しながら草花の少ない中、遠望ができ、琵琶湖の雄大な景色を十分に楽しんで頂けました。山頂トイレ前の雨水取水箇所に積まれた無数のケルンは誰の仕業か景観上良くない。報告は立山の雷鳥とシャラでした。

2024.09.14 Saturday 自然観察会の報告です



今年度 4 回目の自然観察会をジョイいぶきの薬草園と伊吹山山麓で行いました。

今日も 9 月中旬とは思えない暑い一日でしたが、フィールドは確実に秋が進んでおり、ハギの仲間やアケボノソウ、ツリフネソウなど秋の花をたくさん観察することができました。報告は、鈴鹿の翡翠でした。

2024.10.14 Monday エコツアーガイドの報告です



伊吹山ツアーガイド予約最終となります。本日は連休最後の日、ドライブウェイさんは昨日に続き山頂駐車場満杯の賑わいとなりました。長野トラベル会社のドライバーさんも料金所で並んだのは初めてと洩らしておられました。山は終盤のワカサハマギクの満開に至る処で見ながら元気無いシオガマギク、イブキトリカブト、リンドウを紹介。山頂では 360 度見渡せた琵琶湖を中心としたパノラマ景色に感動されました。又、眼下に望めた登山道の大雨によるキズあとも感慨深く観察頂きました。皆さんお元気で 2 時半には駐車場か

ら下山でき、お千代保稲荷へ向かわれました。 報告は立山の雷鳥でした。

■令和6(2024)年度 自然観察会報告 *詳細は本会HPをご覧ください。

回	期 日	曜	テーマ	コース	参加者
1	4月13日	土	伊吹山のザゼンソウ群落	ルッチプラザ出発(13:00)→ザゼンソウの観察→ルッチプラザ(15:00) (解散)	会員 12名 一般 1名
2	4月28日	日	春の花を訪ねて、伊吹北尾根を歩こう。	関ヶ原ふれあいC(9:30)→伊吹山ドライブウェイより静馬が原P→御座峰山頂(昼食)→往路をたどり→関ヶ原ふれあいC(16:00)	会員 9名 一般 1名
3	5月11日	土	山門水源の森で春の草木を観察し、環境保全のあり方について学ぼう。	米原駅東口出発(8:30)→(マイクロバス)→山門水源の森→植物観察しながら散策(約3時間)→(マイクロバス)→米原駅(16:30)	会員 12名
4	6月29日	土	伊吹山で化石を探しながら歩こう!山頂で化石体験教室 <子ども参加歓迎!>	関ヶ原ふれあいセンター(9:30発)→山頂駐車場(10:00)→西登山口出発→山頂(昼食)→山小屋にて化石体験教室→下山→東登山道→山頂駐車場(15:30)駐車場	会員 5名 一般 13名
5	7月27日	土	夏休み企画!親子観察会 見て、聞いて、感じよう!	山頂駐車場(10:00)→西登山口出発→(観察会・自由研究のサポート)→山頂(昼食)→下山→東登山道→山頂駐車場(14:30)駐車場	会員 10名 一般 20名
6	8月24日	土	伊吹山山頂と「笹又登山道」の秋の花を楽しもう。	関ヶ原ふれあいセンター出発(10:00)→伊吹山ドライブウェイ→山頂駐車場(10:40)→西登山道→山頂昼食(13:00)→東登山道(13:30)→山頂駐車場(15:00)→北尾根DW待避所→(笹又登山道)→関ヶ原ふれあいセンター解散(16:00)	会員 10名 一般 4名
7	9月7日~ 8日	土	伊吹山山頂で夕日&星空、ご来光を体験しよう(山小屋泊)	関ヶ原ふれあいセンター出発(16:30)→伊吹山ドライブウェイ→山頂駐車場(17:00)→西登山道→(18:00)→夕日観察→夕食(山小屋)→星空観察→宿泊→ご来光→朝食→関ヶ原ふれあいセンター解散(10:00)	中止
8	10月12日	土	沖島&八幡山から琵琶湖周辺の山々を展望しよう。	彦根駅東口出発(9:00)→(マイクロバス)→船で沖島上陸(10:30)→ケンケン山山頂(12:00)→(マイクロバス)→ロープウェイで八幡山西の址(15:00)→近江八幡駅(15:30)	会員 10名 一般 1名
9	11月30日	土	佐和山城址で紅葉を楽しみ、座学「伊吹山の重要植物」について学ぼう。	彦根駅西口出発(10時)→佐和山登山道→山頂(昼食)→彦根駅近くの会場で座学→解散(14:30)*希望者には彦根城周辺をご案内します。	
10	3月8日	土	伊吹の山里で、早春の花々と生きものにぎわいを感じよう。	関ヶ原ふれあいセンター北側P→伊吹山麓・小泉(13:30=これより徒歩)→林道→大久保→下板並→(小泉P:車便乗)→現地または関ヶ原ふれあいセンターで解散(16時)	

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会 2024年活動報告(10月20日現在)

2024.10.28

1 伊吹山三合目獣害防止ネットの維持管理、植生保全等

○作業内容

化繊ネットの設置、点検・補修、金属柵の設置

ネット際・観察路の草刈り、ネット内のススキ、ワラビ、スイバ、フジテンニンソウの刈取り、昨秋刈取りのススキの搬出など

○主な作業日程

3月17日 三合目ネットの引き上げ 3月31日 二合目ヒロハノアマナ柵を金属柵に更新

4月～9月 原則毎週木曜および日曜 化繊ネットの点検・補修、ススキ等の刈取り、草刈り

6月、8月および10月に化繊ネットを金属柵に更新(次の2に記載)



2 経年劣化した化繊ネットを金属柵に更新

次のとおり金属柵を設置し、今後ニホンジカの食害から豊かな植生をしっかりと守ることが期待できるとともに、維持管理業務の軽減につながる。実際、今年経年劣化した化繊ネットには2回ニホンジカが侵入しユウスゲなど多くの植物が食害にあった。

(1) 株資生堂様支援による金属柵の設置

実施日:6月20日、10月17日および18日

これまで順次化繊ネットを金属柵に更新してきた「ユウス

ゲ柵(全長約400m)」について、6月および10月にそれぞれ100mずつ金属柵に更新し、全周の更新を完了。6月は資生堂の社員さん、当会メンバー、伊吹山レンジャーさんなど約40名、10月は同様にのべ約30名の参加で金属柵を設置した。

○6月20日の作業



○10月17日、18日の作業



(2) 平和堂財団環境保全活動助成夏原グラント支援による金属柵の設置

実施日:8月23日・25日

今年夏原グラント助成に採択され、三合目の東屋近くにある「イブキトラノオ柵(全長約70m)」を拡張して全長約100mの金属柵を設置。設置にあたっては当会メンバーのほか、近隣のまちづくり団体会員、伊吹山に関心のある親子、伊吹山レンジャーさんなどのべ35人が参加。



3 2022年金属柵を新設したエリアで多様な植生再生を確認

資生堂様支援による全周約180mの金属柵を2022年に新設したエリアで植生調査を継続実施した結果、金属柵設置前は一面ススキなどに覆われていたエリアに多くのユウスゲをはじめ絶滅危惧種Ⅱ類のキセワタなど様々な植物の開花を確認できた。なお、豊かな植生の再生を促すため、主にススキ等の刈取りを継続実施している。



4 三合目植物観察会の実施

登山規制中のため三合目への林道を当会メンバーが送迎する形式で、4月から10月まで毎月植物観察会を小規模に開催。約130人参加。ユウスゲが開花する7月は3日間の観察会を実施した。4月のイブキスミレ、カタクリから10月のリンドウ、センブリまで季節ごとの多様な花々を観察することができた。

開催日	参加者	
4月14日	9人	イブキスミレ、エイザンスミレ、カタクリ、アマナ、ヤマエンゴサク、エンレイソウ、ヒメニラ、ウスバサイシン、スハマソウなど約36種
		

5月18日、25日	15人	イブキノエンドウ、フタリシズカ、キンラン、ハクサンフウロ、ヒメハギ、ナルコユリ、タツナミソウ、エビネ、ノアザミ、エゾノタチツボスミレほか	
6月22日	14人	ササユリ、キバナノレンリソウ、イブキトラノオ、スズサイコ、ウツボグサ、クララ、オカトラノオ、クサフジ、イブキタイゲキなど約29種	
7月20~22日	44人	ユウスゲ、アリノトウグサ、アキノタムラソウ、オオバギボウシ、オオダイコンソウ、カワラナデシコ、キバナカワラマツバ、コオニユリほか約40種	
8月1日、24日	12人	キセワタ、ワレモコウ、セリモドキ、タムラソウ、オトギリソウ、イブキボウフウ、シュロソウ、ツルボ、ヒオウギ、シデシャジンほか約33種	
9月21日、28日	13人	シオガマガク、ヤマハッカ、クサボタン、ヒヨドリバナ、ノダケ、フジカンゾウ、アキチョウジ、ツルリンドウ、ステゴビル、ツルニンジンほか約45種	
10月12日	22人	イブキトリカブト、ヒメアザミ、リンドウ、センブリ、ヤマラッキョウ、ナギナタコウジュ、アケボノソウ、ツリフネソウ、ナンテンハギほか約24種	

*植物観察会参加費(高校生以上)は一人500円。うち300円は入山協力金として再生協議会へ納付。

5 三合目樹木に樹名板を設置

三合目には草本だけでなく木本類も多様な植生が残されている。このため5月15日に森林インストラクターの指導の下、簡易な樹木調査を行ったところ短時間で60種を確認した。手製の樹名板を設置し以降の植物観察会に活用している。



6 子供たちへの環境学習支援

ふるさとの大切な山「伊吹山」の魅力とともに課題やその対策を市内の小中学生に説明し、市の宝物伊吹山を知り、また課題を自分事として考えてもらう環境学習を支援。座学、山頂でのフィールド学習など市内の7小・中学校（今年実施済あるいは実施予定）

令和5年度 緑化事業実績報告書

滋賀 鋳産株式会社
伊吹 鋳山

令和5年度 緑化実績

緑化区域	計画面積 (㎡)		実績面積 (㎡)		工 法	備 考
		緑 化		緑 化		
上部区域		4,000	9月	4,410	吹き付け工法	自社施工 ソイルシーダーにより吹き付け工法で実施した。 吹き付けを行う種子は、国産在来種のみを使用。 一部、伊吹産ヨモギを使用 専門業者へ外注 昨年度実施箇所に再吹付 植生基材吹付工法で実施する 使用種子、国産のイタドリ、ススキ、チカラシバ、カゼクサ 獣害防止対策アーチブロック設置 970㎡
			3月	1,400	植生基材吹付工法	
下部区域 オープンシュート北面		0		0		
計		4,000		5,810		

緑化工法別の年次緑化面積

単位 m²

年度	下部区域緑化面積								上部区域緑化					
	原生植物 移植	植生袋 張	芝土の 積み	植樹	吹付け 播種	下部区域 合計	下部区域 累計	原生植物 移植	吹付け 播種	芝土の 積み	上部区域 合計	上部区域 累計	上部+下部 合計	上部+下部 累計
46	3,000	250	1,000	150	2,700	7,100	7,100				0	0	7,100	7,100
47	3,600		1,500	3,150	7,350	15,600	22,700				0	0	15,600	22,700
48	4,860		350		3,650	13,600	22,460				0	0	22,460	45,160
49	8,740					13,400	22,140				0	0	22,140	67,300
50	34,500						34,500				0	0	34,500	101,800
51	27,000						27,000				0	0	27,000	128,800
52	15,000						15,000				0	0	15,000	143,800
53	15,500					15,200	30,700				0	0	30,700	174,500
54	8,900					4,000	12,900	4,810			4,810	4,810	17,710	192,210
55	12,290					600	12,890	1,790			1,790	6,600	14,680	206,890
56	11,910						11,910	3,140			3,140	9,740	15,050	221,940
57	8,120						8,120	3,880			3,880	13,620	12,000	233,940
58	11,000						11,000	1,630			1,630	15,250	12,630	246,570
59	14,160						14,160	4,170			4,170	19,420	18,330	264,900
60	15,410						15,410	1,000			1,000	20,420	16,410	281,310
61	10,000						10,000	13,680			13,680	34,100	23,680	304,990
62	5,000						5,000	1,000			1,000	35,100	6,000	310,990
63	4,760		11,300			7,070	23,130	3,090			3,090	38,190	26,220	337,210
H/ 1			10,650			1,580	12,230	870			870	39,060	13,100	350,310
2			5,080			280	5,360	1,870			1,870	40,930	7,230	357,540
3	70		5,020	560		4,500	10,150	3,450			3,450	44,380	13,600	371,140
4						9,520	9,520	10,480			10,480	54,860	20,000	391,140
5						6,650	6,650	342,930	20,150		20,150	75,010	26,800	417,940
6						7,000	7,000	349,930	8,880		8,880	83,890	15,880	433,820
7						5,500	5,500	355,430	1,000		1,000	84,890	6,500	440,320
8						4,500	4,500	359,930	0		0	84,890	4,500	444,820
9						6,500	6,500	366,430	6,300		6,300	91,190	12,800	457,620
10			4,520				4,520	370,950	4,000		4,000	95,190	8,520	466,140
11			5,500				5,500	376,450	5,400		5,400	100,590	10,900	477,040
12			4,100				4,100	380,550	7,900		7,900	108,490	12,000	489,040
13			450				450	381,000	3,700		3,700	112,190	4,150	493,190
14			1,400				1,400	382,400	2,850		2,850	115,040	4,250	497,440
15			370				370	382,770	0		0	115,040	370	497,810
16			850				850	383,620	0		0	115,040	850	498,660
17			975			625	1,600	385,220	0		0	115,040	1,600	500,260
18						1,000	1,000	386,220	0	1,500	1,500	116,540	2,500	502,760
19						0	386,220	0	9,000		9,000	125,540	9,000	511,760
20			835			600	1,435	387,655	795		795	126,335	2,230	513,990

年度	下部区域緑化面積							上部区域緑化					上部+下部 合計	上部+下部 累計			
	原生植物 移植	植生袋	張	芝	土の積み	植	樹	吹付け 播種	下部区域 合計	下部区域 累計	原生植物 移植	吹付け 播種			張	芝	上部区域 合計
21								0	387,655	0				0	126,335	0	513,990
22			849					849	388,504	0				0	126,335	849	514,839
23								0	388,504	0			387	387	126,722	387	515,226
24								0	388,504	93				93	126,815	93	515,319
25								0	388,504					0	126,815	0	515,319
26								0	388,504		200			200	127,015	200	515,519
27								0	388,504		660			660	127,675	660	516,179
28								0	388,504		1,000			1,000	128,675	1,000	517,179
29								0	388,504		10,000			10,000	138,675	10,000	527,179
30								0	388,504		7,500			7,500	146,175	7,500	534,679
R/ 1								0	388,504		1,375			1,375	147,550	1,375	536,054
2								0	388,504		2,220			2,220	148,395	2,220	536,899
3								0	388,504		4,000			4,000	151,550	4,000	540,054
4								0	388,504		3,400			3,400	150,950	3,400	539,454
5								0	388,504		3,400			3,400	151,795	3,400	540,299
6								0	388,504		5,810			5,810	157,360	5,810	545,864

令和6年度 緑化事業実施計画書

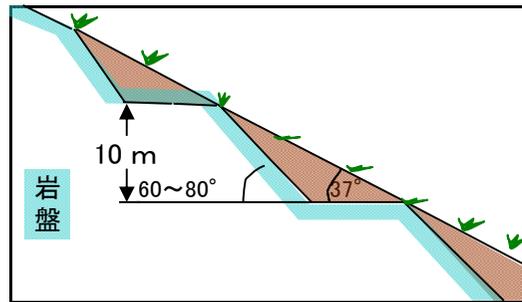
滋 賀 鋳 産 株 式 会 社
伊 吹 鋳 山

令和6年度 緑化計画

緑化区域	計画面積 (㎡)		完了時期	工 法	備 考
		緑 化			
上部区域		1,000	2024年3月	植生基材吹付工法	専門業者へ外注 植生基材吹付工法で実施する 使用種子、国産種子 獣害防止対策アーチブロック設置
下部区域 オープンシュート南面		0			
計		1,000	※面積、実施時期は法面造成状況による		

令和6年度 緑化工法

緑化区域により、以下のような工法を主体として緑化を実施する。



上部区域（原生植物移植、吹き付け工法）
採掘跡地の法面をブルドーザー・ショベルで約37° に造成し、
植生基材吹付工法、又は吹付け工法にて行う

伊吹鉦山緑化区域



年度別緑化区域		1/5000
昭和46年～平成29年緑化完了区域		
平成30年度	緑化完了区域	
令和1年度	緑化完了区域	
令和2年度	緑化完了区域	
令和3、4年度	緑化完了区域	
令和5年度	緑化完了区域	
緑化完了後	採掘地	

昭和46年～平成29年緑化完了面積	
上部区域	138,675m ²
下部区域	388,504m ²



2024年3月施工場所



2023年9月施工場所

上部区域緑化地
2024. 5. 30撮影



下部区域緑化地

2024. 5. 30撮影



オープンシュート緑化地

2024. 5. 30撮影





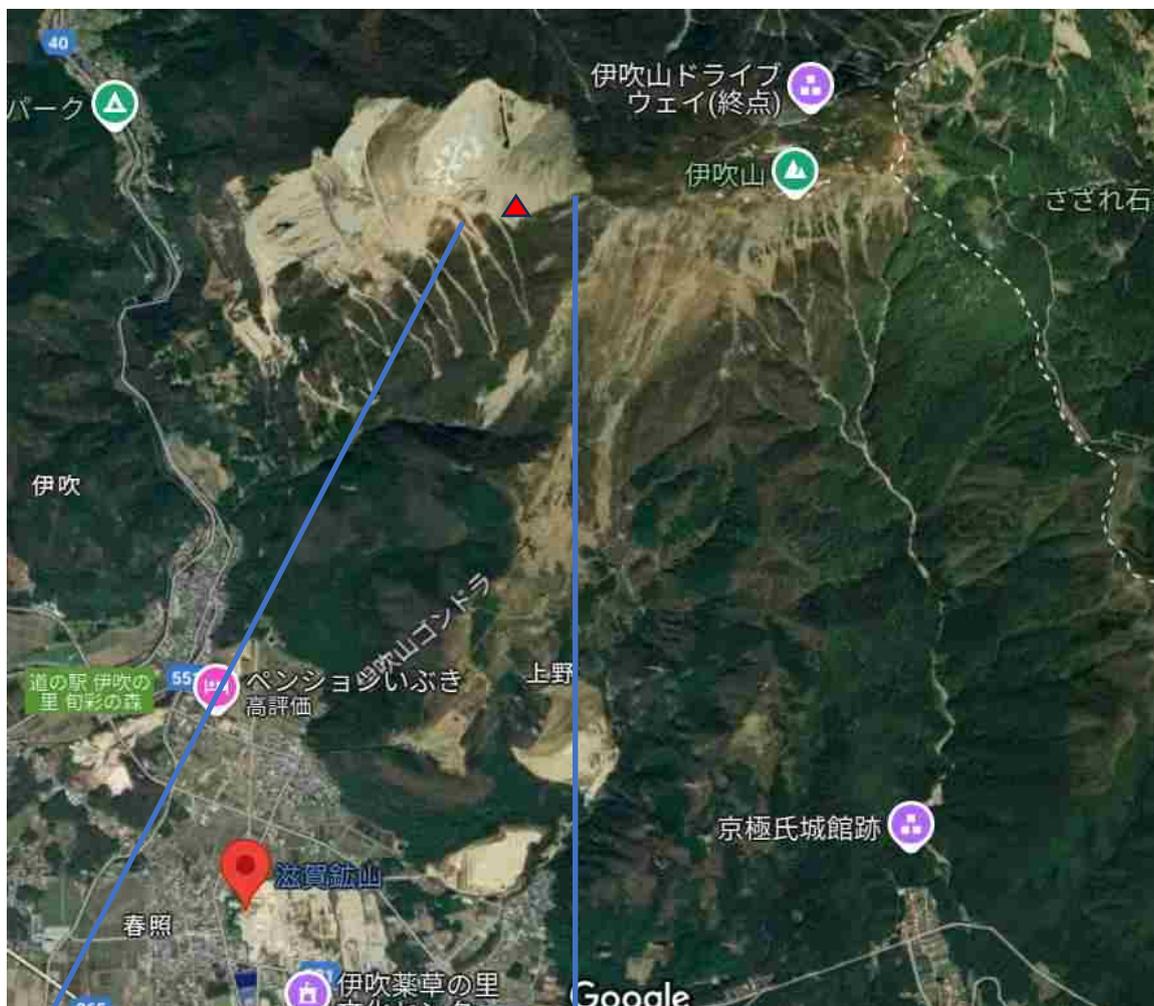
アーチブロック設置箇所状況

2024. 5. 30撮影

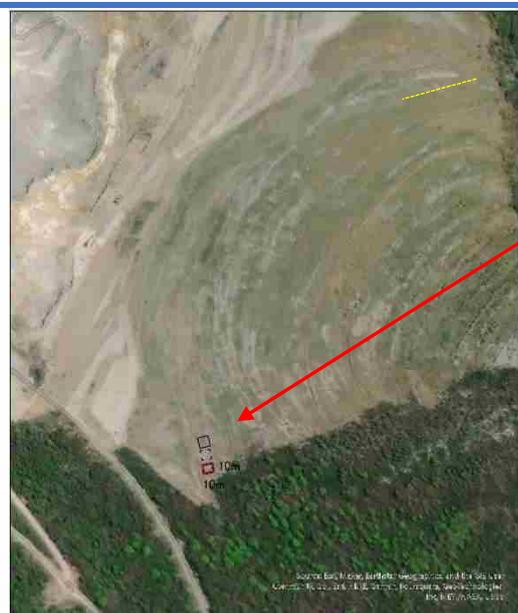


「伊吹鉱山 採掘跡地の樹林化に向けた試験施工について」

1. 試験場所



拡大



試験緑化施工
箇所

試験範囲

— 試験施工 表線
□ 不陸列に緑化試験箇所

0 55 110 220 メートル



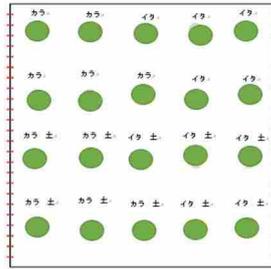
図5-3

2. 試験内容

1) 単木防護試験区

カラマツ

イタヤカエデ



2) 不嗜好性樹種試験区

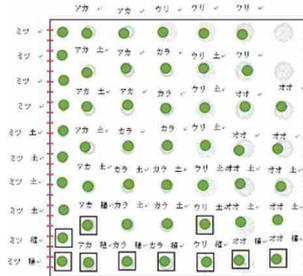
ミツマタ

アカマツ

カラマツ

ウリハダカエデ

オオバアサガラ



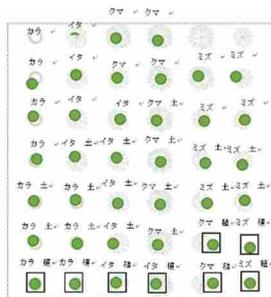
2) 防護柵試験区

カラマツ

イタヤカエデ

クマシデ

ミズナラ



3. 苗木の種子採取

採掘跡地の林縁にてイタヤカエデ

ミツバウツギ・マユミ・アブラチャンの種子

を採取、滋賀県東近江市にて生産を開始する。

